

喜寿きじゆ
(松口月城まつぐちげつじよう)

佳齡かれい 七十七しちじゆうしち 春風しゆんぷう

喜ぶべしよろこ 清祥せいしやう 気愈々きいよいよ 雄なりゆう

先哲せんてつ 言げん 有あ 仁者じんしゃ 寿いのちながしと

一郷いつきやうの 敬仰けいぎやう 斯この 翁おうに 在あり

佳齡七十七春風 可喜清祥氣愈雄
先哲有言仁者寿 一郷敬仰在斯翁

解説 喜寿を祝う詩。

語釈 ※喜寿|| 数え年七十七歳の年祝いをいう。喜の字の草書体が七十七と書かれるからである。 ※佳齡|| 老化をいう。 ※清祥|| 相手方の健康であることを祈り、幸せに暮らしていることを喜ぶ。 ※愈々|| ますます。より一層。

※先哲|| 昔の賢人。 ※仁者|| 情け深い人。仁徳を備えた人。 ※寿|| いのちの長いこと。長命。 ※一郷|| ふるさと。故郷。 ※敬仰|| うやまいあおぐこと。 ※翁|| 年老いた男。

通釈 春の風が佳齡七十七歳を祝す。健康であることを喜び、気持ち益々傑出している。先哲が言うには仁者は寿命が長く、故郷の人々はこの翁を敬い仰いでいると。